

平成24年2月

松澤和彦 学位論文審査要旨

主 査 谷 口 晋 一
副主査 山 本 一 博
同 清 水 英 治

主論文

甲状腺腫瘍組織における転写抑制因子PLZFの発現パターンについての検討

(著者：松澤和彦)

平成24年 米子医学雑誌 63巻 15頁～21頁

審 査 結 果 の 要 旨

甲状腺癌は内分泌腫瘍の中でも、エコーの普及に伴い急速に患者数の増えている腫瘍である。多くは適切な治療を受けることにより比較的予後の良好な腫瘍である。しかし未分化癌など一部の分化度の低い悪性腫瘍では治療に難渋するものがある。本研究では細胞周期に関連する転写抑制因子PLZFについて、さまざまな甲状腺腫瘍組織における発現パターンの違いを明らかにした。悪性腫瘍間でも発現パターンの違いが確認され、PLZFが甲状腺細胞の癌化過程のみならず濾胞構造維持（機能面）にも関連する可能性を示唆しており、明らかに学術水準を高めたものと認める。